

autocult

Opel Super 6 Stromlinie (ドイツ, 1938)

合理化

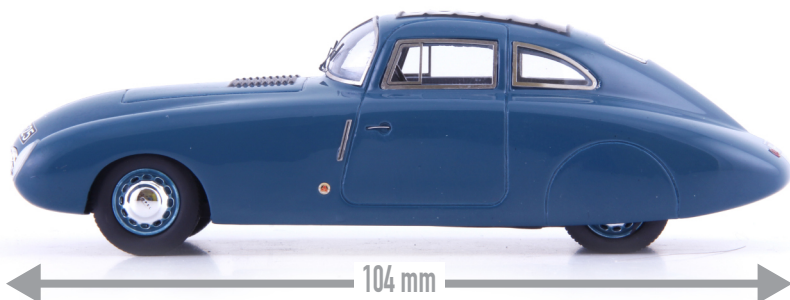
scale 1:43

#04034

release

04/2022

limited edition 333 pcs.



高速シックス

1937年に登場したオペル・スーパー6をベースに、エアロダイナミクスを追求した後継車を作りたいという願望がオペル社内で高まっていた。これは、ゲオルク・フォン・オペル自身の要望であった可能性が高い。リュッセルスハイム（オペルの本拠地）の経営陣は、他のドイツの大手メーカーと同様、ドイツの高速道路網（ドイツ・アウトバーン）が発達する過程において、そこで高い平均速度を確実に出すことができる高速乗用車について考えていた。

ゲオルク・フォン・オペルは、メイン川沿いのフランクフルトにあるカーボディ・ショップ「デア&シュレック」に連絡をとった。デア&シュレック社では、オーナーのヤコブ・デアとマティアス・シュレックが、空気力学的な観点から理想的な車の形をデザインすることに熱心に取り組んでいた、そして有名な自動車デザイナーのラインハルト・フレイヘア・ケーニヒ・フォン・ファクセンフェルドをボディデザイナーとして獲得することに成功した。1937年、彼はジャラーのアイデアに触発され

て、オペル6をベースにしたアルミ製車体をデザインした。デザイン画の署名には（オペル2リッターシャシーをベースにしたジャラーの流線型車体の青写真）という言葉が記されている。この印象的なドロップ型のデザインは、1938年にフランクフルト工場ですら若干アレンジされて2種類のモデルに使用された。最高速度は160km/hを超え、その空気力学の原理を応用したデザインは期待通りのものだったが、連続生産はされなかった。

その後、2台とも忘れ去られただけでなく、おそらく廃車になったと思われる。現在では、この2台の流線型車は1台も存在しないことが分かっている。

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de